



# 山科急行線をモデルとした 高速路線バスの生活者利用促進に向けた 地域特化型モビリティマネジメントの実施



実施主体：京都市 都市計画局 歩くまち京都推進室、(株)創建  
連携協力：山科区役所、京阪バス

## 1 取組の背景

サービスは高くても、生活者の認知度が低いバスの存在。

京都駅と山科区を、高速道路を介してつなぐ京阪バス「山科急行線」(通称山急バス)は、醍醐寺等への観光及び沿線大学の通学向けのバスとしてのイメージが強く、沿線住民が一般の路線バスとして認識しにくい状態にありました。

今回の対象地域(右図参照)は、稲荷山山麓により京都駅周辺の都心部と隔てられており、稲荷山を抜ける高速道路を通行する山急バスは、都心に向かう交通手段としてサービス水準の高い手段であるため、周知により利用増加の直接的な効果が十分に期待される地域と考えられました。



## 2 取組の目的

バスサービスの高さを知ったとき、人はどう動くのか？

本取組では、バスサービス水準の高さに対して、生活者の認知状況が低い特定の地域において、MMの基本である地域の交通情報を徹底して周知することにより、実際の利用増加等の効果の発現を確認することを目的としています。

とくに、同じ交通サービスを受用できる極めて限定的な地域及び対象者に対して、「あなたのまち」からの移動手段や、交通サービスの利用のコツなど、地域を限定することで実現できる、まち専用の情報を個別に作成・提供することによる効果を把握していきます。

山急バスは、高速を通る観光バスだから、私たち住民は乗れないですよね？

山急バスが使えるのは知っているけど、クルマの方が駅まで早いし…。

京都駅に行く時に、たまに山急バスを使うけど、もっと便利に使えないかしら？

「あなたのまち」のバスですから、住民の方も乗れますよ。

「あなたのまち」なら高速を通るバスで、10分かかりませんよ。

「あなたのまち」なら、例えば大阪方面に行くのも便利です。

# Point あなたのまちの交通情報提供を突き詰めたらどうなるか？

## 3 取組の内容

同じサービスを受用できる地域への「ピンポイント広報」だからこそできる、地域特化型MMの取組。

### 地域特化型パンフレット

取組は、山急バス沿線の住宅街の4つのバス停(大石神社～蚊ヶ瀬)の半径300m勢力圏内3,621世帯に対して、地域特化型のパンフレットを作成し、アンケート調査票とともに配布するものです。配布はH28.1末に実施しました。

本取組の中心となる地域特化型のパンフレットについては、運行事業者である京阪バス、区内で交通事業を展開する京都市交通局及び、地域行政として区役所と連携・協議を進め、地域に必要な情報を右図のように整理しました。

同じサービスを受用できる地域に限定することで、限られた紙面でもバス利用に必要な情報を全て詳細に記載できるメリットがあります。

### 4つのバス停の勢力圏内『3,600世帯』のためだけの情報をまとめた「あなたのまち」の交通パンフ

裏表紙：乗り方・降り方

表紙：MMのこと

p2～3：山急バスの特徴(利用のコツ)

p4～5：まちの4つのバス停の「場所」と「時刻表」

p6～8：まちの全路線図と、方面別のオススメの行き方

山急バスは高速は速いですが、「一般の路線バス」であることを強調するため、乗り方、降り方、見分ける方法を掲載しています。

山急バスは一般の路線バスですが、若干の違いはあるため、最後に「違い」を紹介しています。とくに、「停車バス停が限定される」ことは、最後に明確に記載しました。

山急バスは、高速道路区間を走り、動きが速い、利用の制限が掛かります。住民の方は、基本的に、京都駅と山科の往來のみ利用いただける旨を記載しています。

バス停位置が分からない人も、「過去に利用したことがある」方が9割以上を占めていました。アンケート調査では、未回答者の行動が分かり難く、とくに後述の実利用者の1割増加の要因が、新規利用が既存利用のリポートか、判断が難しい所です。

時刻表は、「行き」自宅から京都駅へ、「帰り」京都駅から自宅へとして、駅と地域を結ぶ各バス停の時刻を、全ての便で記載しています。地域限定であれば、限られた紙面でもこのような表現が可能となります。

時刻表は、平日と休日の行き・降りそれぞれを記載しています。

地域が含まれる山科区では、京阪バスの他、市交通等も運行しています。その行き先も多岐に渡るため、路線一本一本の経由バス停をなるべくデザインしています。

地域を限定したことで、地域から出かける際に利用できる交通手段も限定できます。普段のクルマを利用している人でも、行き先からスマホの移動手段が逆引きできるように、表現しています。

スマホが使えるようにするため、バスロケーションを掲載しました。登録型のメールサービスも紹介しています。

ほとんどの人が知らない「途中の電車乗継ぎ」による大阪方面への利便性を、紹介しています。

降り待ち時間の不安に対して、「山急バス」乗り場は、観光バスと同じため、待合ラウンジが活用できるメリットを紹介しました。

いつでもどこでも、バスの運行状況を簡単に確認できます。

山急バスは「高速道路を通る一般バス」であることが周知されていない傾向がありました。路線図とともに特徴を紹介するページを設けました。

山急バスの特徴である「高速道路を通るため、京都駅まで早い」ことを、マイカードの比較を中心に紹介しました。

山急バスは「高速道路を通る観光バスだから、私たち住民は乗れないですよね？」というイメージが強い地域に、地域特化型のパンフレットを配布し、認知度を高めることを目指しています。

山急バスは「高速道路を通る一般バス」であることが周知されていない傾向がありました。路線図とともに特徴を紹介するページを設けました。

山急バスの特徴である「高速道路を通るため、京都駅まで早い」ことを、マイカードの比較を中心に紹介しました。

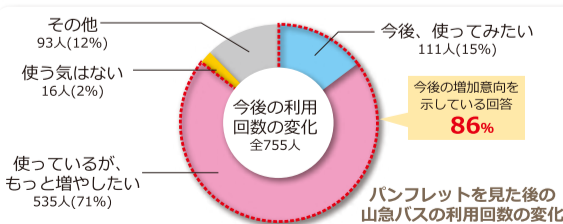
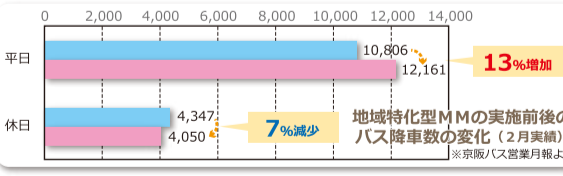
## 4 取組による効果と、今後の展開

まちのサービスを正しく「アピール」すれば、人は動く。

今回の結果として、地域特化型MMの実施直後の2月時点の、地域4バス停のバス乗降者数が、同月前年の比率で約1割増加しています。また、アンケート結果では、今後の利用回数の増加に意欲のある人が約9割を超えています。

この結果は、既存の情報提供の手法であっても、①地域を同じサービスが受用できる範囲に限定し、②使い方のコツ等を含めた「あなたのまち」の交通情報として独自性を出すことで一定の効果が得られることを示すと考えます。

今後、地域特化型MMの他地域の横展開を図り、効果の検証を進めていく予定としています。



# Point 地域4バス停周辺からの利用者が約1割増加した。

ただし、今回の対象地域は、「極めてサービスが高く、認知度が低かった」特殊なケースと考えた場合、地域特化型MM本来の効果でない可能性が…



# Point 4つの地域に横展開し、地域特化型MMの効果を検証。